

〔6〕 高原町小体連 （学校数 4校 429名）

## I 年間事業

期 日	回	内 容
6月17日（月）	第1回	役員選出、規約確認、年間計画の確認 水泳大会実施検討
7月24日（水）	第 回	高原町小学校体育連盟水泳大会 → 中止
7月25日（木）	第 回	高原町小学校体育連盟水泳大会 → 中止
8月 7日（水）	第2回	陸上大会計画案検討
10月30日（水）	第3回	陸上大会前日準備、名簿作成等
10月31日（木）	第4回	陸上大会実施、記録整理、賞状作成 ※予備日：11月7日（木）
12月13日（金）	第5回	小体連研究のまとめ
2月21日（金）	第6回	本年度の取組のまとめ、次年度への引き継ぎ、会計報告等

## II 事業部のあゆみ

1 水泳大会 → 中止

### 2 陸上大会

（1） 大会名 令和元年高原町小学校体育連盟陸上大会

（2） 実施日 令和元年10月31日（木）

（3） 会 場 高原町立高原小学校運動場

（4） 出場者 高原町内小学校5・6年生児童（延べ人数 約100名）

#### （5） 実施種目

- ・ 一般走100m（5・6年生男女）
- ・ 800m走（5・6年生女子）
- ・ 400mリレー（5・6年生混合男女）
- ・ 走り幅跳び（5・6年生男女）
- ・ 選抜走100m（5・6年生男女）
- ・ 1000m走（5・6年生男子）
- ・ 走り高跳び（6年生男女）
- ・ ソフトボール投げ（5・6年生男女）

(6) 競技方法

- 出場は、一人2種目まで参加可能とする。2種目出場の際は、トラック競技とフィールド競技の各1種目ずつとし、トラック競技のみ、あるいはフィールド競技のみ2種目としないようにする。また、リレーに出場する場合のみ、3種目まで出場できるものとする。
- 競技は、学年別、男女別に実施する。
- 競技規則は、県小体連競技規則に準じ、細部については町小体連で定める。

(7) 日 程

開会式	8 : 3 0	競技開始	9 : 0 0
競技終了	1 1 : 0 0	閉会式終了	1 1 : 1 5

(8) 表 彰

- 各種目3位まで表彰し、参加者全員に記録証を授与する。

(9) 反 省

天気に恵まれ、児童が自分の力を十分に発揮できた大会であった。役員数が少ないため、中学校の体育科の先生と高原町教育委員会の方にも役員を依頼した。先生方の協力で、全ての競技の安全面に留意しながら、実施できたので良かった。

しかし、高原町では、中規模校1校、小規模校3校であり、種目によって出場者が少ない競技があり、種目の精選をする必要がある。また、高原小学校運動場で大会を行うが、グラウンドコンディションが天候で左右されるので、今後、陸上競技上のような場所のできないか検討していく。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題・副題

「運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成」  
～「感じる」「気づく」を実感できる体づくり運動領域の指導を通して～

#### 2 主題設定の理由

体育科における学習は、「動きの獲得」や「体力の向上」ととらえられてきている。体力を高め、運動能力を向上させることが優先され、この数値が高ければ運動によくかかわれているとされている。また、スポーツ少年団等の過度な勝利への熱の高まりは、より一層「運動に興味を持ち、活発に運動する者とそうでない者の二極化」を拡大させているといえる。

本町もスポーツ少年団活動が盛んで、特に野球やサッカー、バレーボール等が好成績をおさめている。反面、スポーツ少年団に所属していない児童と所属している児童の体力面での格差は大きく、全体的に体力が低下してきている一因とも言える。

本町は4つの小学校があるが、中心校である高原小学校を除き、他の3つの小学校は複式学級を有する小規模校である。昨年度までゲーム・ボール運動領域について研究を進めてきたが、人数が少ないため、研究の成果が還元しにくい面もあった。学校規模に関係なく、児童一人一人が無理なく体を動かし、運動する楽しさや目標を達成できたときの喜びを味わわせるためには、「体づくり運動」領域の研究を進めることが本町の実態に最も有効であると考え、本主題を設定した。

#### 3 研究仮説

##### 【仮説1】

体づくり運動領域の授業において、児童の発達段階に応じて指導内容を明確にし、適切に場の設定を工夫すれば、児童は体を動かす楽しさや心地よさを「感じる」ことができ、進んで日常的に体力向上に取り組む児童の育成に資することができるであろう。

##### 【仮説2】

体づくり運動領域の授業において友達との関わり合いを大切にした学習指導の工夫・改善を行えば、児童は自分や友だちの体の状態や運動の特性に「気づく」ことができ、進んで日常的に体力向上に取り組む児童の育成に資することができるであろう。

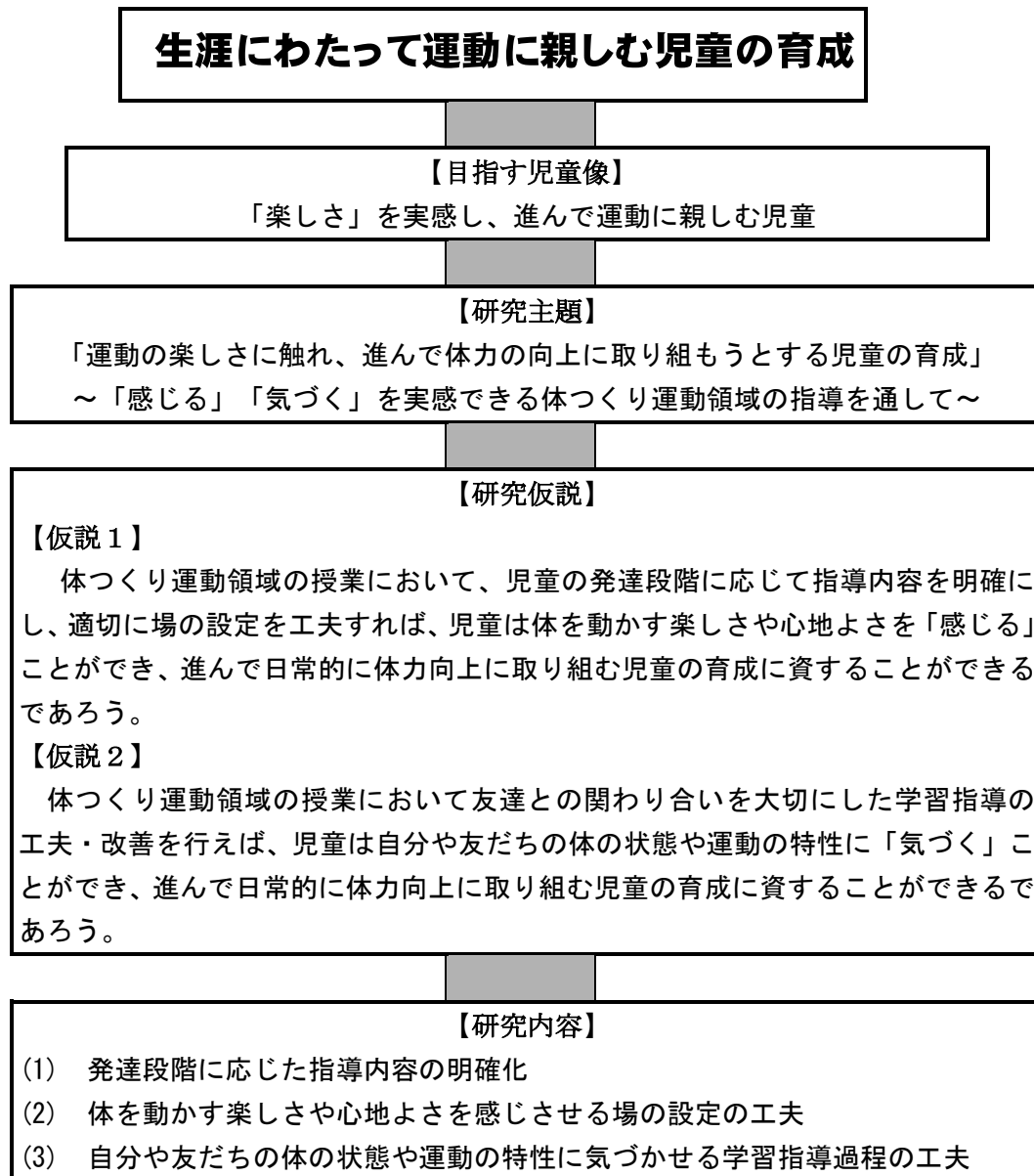
#### 4 研究内容

(1) 発達段階に応じた指導内容の明確化

(2) 体を動かす楽しさや心地よさを感じさせる場の設定の工夫

(3) 自分や友だちの体の状態や運動の特性に気づかせる学習指導過程の工夫

## 5 研究の全体構想



○ 研究は2カ年計画で、今年度は理論的な研究を行った。来年度は実践を行っていく。

## IV まとめ

水泳大会においては、熱中症の危険性より中止になった。しかし、各校で、水泳記録会を行った。水泳記録会は児童の負担だけでなく、見に来る保護者や準備する教職員の負担軽減にもつながったので、今後も各校での水泳記録会を続けていく。

研究関係では、今年度新たに研究主題を設定した。町内の体力向上のために、じっくり体育科学習指導の在り方を考え、来年度に引き継ぎたい。そして高原町内の児童の体力向上に努めていきたい。